

腸管出血性大腸菌感染症の集団感染事例について

令和4年5月に松戸市内の高齢者施設で、腸管出血性大腸菌（O157）による集団感染事例が発生しました。

腸管出血性大腸菌感染症は、通年で発生していますので、日頃から手洗いをするよう心掛けましょう。

また、感染拡大を防止するため、便や嘔吐物は適正に処理し、汚れた床や用具などは適切に消毒しましょう。

1 経緯

令和4年5月24日（火）

松戸市内の医療機関から、松戸市内の高齢者施設の入所者が急性胃腸炎で救急搬送され、同施設で他にも複数名の有症者がいると通報があった。

松戸保健所が、施設利用者の健康状況を確認するとともに、衛生管理の指導を行い、職員及び入所者の便検査への協力を依頼した。

令和4年5月26日（木）～6月14日（火）

職員76名及び入所者71名の検便（医療機関での検査を含む）を実施し、入所者10名の腸管出血性大腸菌感染症（O157・VT1VT2*）が判明した。

<患者概要>

年齢	性別	発症の状況	発症日	検体搬入日	発生届出日
91歳	女	水様性下痢、血便	5月23日	5月27日	5月29日
89歳	女	水様性下痢、血便	5月24日	5月27日	5月29日
89歳	女	水様性下痢	5月25日	5月26日	5月29日
91歳	男	水様性下痢、血便	5月23日	5月29日	5月31日
92歳	女	水様性下痢	5月24日	5月30日	6月1日
87歳	男	無症状	—	5月30日	6月2日
94歳	女	下痢	5月31日	6月1日	6月3日
95歳	男	水様性下痢	5月23日	6月2日	6月4日
85歳	女	水様性下痢	5月25日	6月2日	6月4日
91歳	女	無症状	—	6月3日	6月5日

（*）VT1VT2：腸管出血性大腸菌が産生するベロ毒素（Vero Toxin、VT）の型

2 感染原因

当初は食中毒も疑い、感染経路の調査を実施したが、令和4年6月3日に調理従事者及び検食の検査結果がいずれも陰性だったことから、食中毒とは特定できなかった。

施設内でのヒトからヒトへの感染の可能性が示唆されたが、感染経路の特定には至らなかった。

3 対応

松戸保健所では、令和4年5月27日と6月7日に施設の現地調査を実施し、手指消毒の徹底及びおむつ交換時のガウンの装着等の標準予防策の徹底等を指導した。

令和4年6月1日以降施設で新たな有症者の発生がなかったこと等から、同年6月30日に事案終息と判断した。なお、患者は全員症状が軽快している。

4 公表の遅延について

事案への対応終了後、他の感染症対応等を優先した結果、当課と松戸保健所の情報共有が不十分となり、公表が漏れていた。

○県民の皆様へ

- ・ 調理や食事の前、動物や土に触った後には、必ずせっけんを使用して十分に手を洗いましょう。
- ・ 肉を調理する場合は、中心部まで十分に加熱しましょう。また、「生肉を扱う調理用の箸やトング」と「焼けた肉を扱う食事用の箸やトング」とを必ず分けましょう。
- ・ 溶血性尿毒症症候群（HUS）など非常に重症な状態になる場合もありますので、下痢、血便等の症状がみられた時は、早めに医療機関を受診しましょう。
- ・ 社会福祉施設、介護保険施設、学校等においては、日頃から施設利用者等の健康管理に注意しましょう。

【参考】

腸管出血性大腸菌とは

1 感染経路

- ・腸管出血性大腸菌は牛など家畜の腸管内にすることがあり、その糞便で汚染された食品や、糞便で汚染された場所を触った手指から経口的に感染する。

2 腸管出血性大腸菌とは

- ・腸管出血性大腸菌感染症は O157, O26 が主な原因であり、その他には O111, O121, O145 などがある。

3 潜伏期間

- ・2～5日をもっとも多い。

4 症状

- ・水様便から血便まで見られる。
- ・嘔吐
- ・溶血性尿毒症症候群（HUS）になる場合もある。

*HUSとは

溶血性貧血、血小板減少、急性腎障害の3主徴をもって診断する。一般にHUSは腸管出血性大腸菌感染症の患者の約1～10%に発症し、下痢あるいは発熱出現後4～10日に発症することが多い。

5 治療

- ・対症療法
- ・脱水に対する処置
- ・抗菌薬療法

6 年別発生状況（腸管出血性大腸菌感染症届出数）

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
千葉県	148	124	131	149	9
全国	3,744	3,088	3,236	3,352	175

※2022年の全国分は速報値。

※2023年の千葉県分は1月1日～3月26日までの累計。全国分は3月12日現在。